

富山県
神社庁報

かわら版

平成二十一年四月二十九日発行
発行所 富山県神社庁
編集 教化委員会広報部会



第八回親子参宮旅行実施

庁教化委 神宮奉賛部会

去る三月二十八日(土)・二十九日(日)の両日、毎年恒例の『親子で行く伊勢神宮参拝旅行』を実施しました。本年は親子参加者五十五名、神社庁及び教化委員スタッフ七名の総勢六十二名の参拝団となりました。一行は外宮・内宮の御垣内参拝を行った後、雅楽の説明と体験、火きり体験をしました。火きりでは実際に煙が出るさまを目の当たりにし、皆驚いているようでした。続いて神楽殿にて、倭舞と人長舞を奉納致しました。子供たちは足の痺れも忘れて聞き入っていました。二日目は鈴鹿サーキットに向かい、親子で楽しく春休みのひと時を過ごした後、バスにて帰路に着き、一泊二日の旅を終えました。

高澤正紀 記



第二十五回小学生作文コンクール

庁教化委 教学部会

今回で二十五回目となる小学生作文コンクールを実施したところ、東は朝日町から西は砺波市まで、県内一円の十八校より六十九作品の応募がありました。入善町舟見鎮座 藤保内神社 高邑吉房宮司さま、小矢部市浅地鎮座 神明社 林 宣彦宮司さま、お二方に審査をお願いし、優秀作品計三十点を選出して頂き、去る二月二十二日(日)富山市山王町鎮座 日枝神社において表彰式を行いました。当日は、受賞児童が二十五名出席、さらに付添いの保護者の方も五十名近く集まって頂き、盛会に表彰を行いました。

高倉政憲 記



天皇陛下御即位二十年奉祝富山縣民大會開催

奉祝富山縣民大會開催



天皇陛下御即位二十年奉祝富山縣民大會主催による天皇陛下御即位二十年奉祝富山縣民大會が一月三十一日(土)午後一時三十分より富山国際会議場二階にて開催されました。雨天にもかかわらず用意された五百席は満席となり盛会となりました。記念式典の後、記念講演として筑波大学名誉教授竹本忠雄氏が演題「弓なして明る」日本一平成の大御代に生きる」と題して講演をされました。 船木信孝 記

第四回教養研修会開催

去る十二月四日、教養研修会が芦峯寺の雄山神社中宮祈願殿にて行われました。講師に立山博物館館長、米原寛先生をお招きいたし、「立山信仰について(立山曼荼羅及び布橋灌頂会の解説)」と題して講義を拝聴いたしました。後に場所を移し、布橋を渡ったところにある遙望館にて立山信仰の映画を拝見し、立山博物館本館にてさらに詳しく米原館長より解説をいただきました。立山曼荼羅に現された地獄と浄土の内観思想や、現実世界と非現実世界が重層的に交錯する独自の世界観が秘められている事をご

教授いただきました。

船木信孝 記



女子神職会 祭式研修会開催

去る四月九日(木) 富山県神社庁に於いて河合正登講師をお招きして、富山県女子神職会祭式研修会を開催いたしました。『地鎮祭の祭式』を中心に七名参加し充実した研修会となりました。

船木泰子 記



兼務神職レポート 『二足のわらじ見聞録』

富山県庁 職員 宮崎一郎

水見市石武雄神社に奉仕する宮崎一郎です。富山県庁に勤務しております。三年前までは、宗教法人担当の文書学術課法規係に配属していました。その節は、神職の皆様方には大変お世話になりました。今回は、三月まで所属していた知事政策室の私の仕事の一つを紹介いたします。

富山県の石井知事は、岐阜、石川、長野、神奈川県知事と積極的に交流を行っており、その中で、富山県と他の知事同士が両県の連携・交流について話合う場のセッティングをしたり、議題の内容を考えたり、各課との調整を行うのが私の主な仕事です。この職務を行う上では、「①アイデアを出す。②担当課のやる気を引き出す。③アイデアの実現にむけて努力する。」ということが大切で、さらに、職務を行うに当たって、日頃から、「①世の中の情報を収集する。②世の中の流れを読む。③過去の歴史と現代をつなげる。④「富山の活性化」のためという目的のために努力する。」ということに心がけています。ここで、各個別の県との交流内容を紹介します。

1. 岐阜県との交流

両知事交流の歴史の中で一番古く、平成二十年七月五日に東海北陸自動車道が全線開通したことから、その日を「富山・岐阜交流の日」と定め、観光・文化・スポーツ等で交流を行っていくことと両県知事が協定書を締結し、実際に交流を始めています(写真)。

2. 長野県との交流

平成十九年から交流が始まりました。長野県とは、隣接しているものの立山黒部アルペンルートでしか直接行き来できないこともあり、新たな交流のネタとして苦しい状況に出した「木曾義仲出世街道で交流を推進」という議題を両県知事の懇談会で取り上げていただいたところ、全国の木曾義仲ファンから反響があり、それならばと両県知事が今年の一月十五日に、NHKの会長に、山田俊男議員、富山県知事、長野県知事等で陳情に行っていたところになりました(写真)。石川県からも連携の打診が来ており、今年も大河ドラマ誘致に向け、マップ作り等の作戦をいろいろ考えております。



3. 神奈川県との交流

京浜工業地帯の父氷見出身の浅野総一郎のご縁で、昨年からはじめました。商談会や、修学旅行の誘致、都市と農村交流等を進めています。神奈川県には、富山県ゆかりの要人がたくさんおられ、また、約900万人という大きな県と仲良くやらせていただいているということによるメリットは、かなりあると考えています。この両県の

4. ご縁

県庁の仕事は、二〜三年で全く異なる仕事内容を行います。配属となったそれぞれの職場で、せつかくあるご縁を大切にしていきたいと思っております。

また、石井知事は、何事にも大変前向きで、さらに成果や、スピードも求められる方です。その例として、県庁で伝説となっているのは、「知事室で知事から宿題をいただいて、どこにも道草せずに真っ直ぐ自分の部屋の席に戻ったにもかかわらず、知事から既に電話がかかっており、『もう出来たか』といわれた」という職員が何人かおられます。しかし、これは、知事の目線が県民目線であることからの厳しさであり、それゆえ、頑張りがいもあり、また、せつかくご縁があり仕事させていただいているのであるから「富山県の活性化」という目的のため今後とも一生懸命職務に励みたいと思っております。四月から観光課に異動になりました。富山県の観光客誘致に向けて、みなさまもご協力よろしくお願いたします。

仕事の内容の詳細は、以下でも紹介してまいります。



交流のご縁で、今年の日本最大のイベントと言われている「横浜開港百五十周年記念開国博Y150」に富山県が展示を打診され、それを受けて八月二十四日〜三十日まで「富山ウィーク」として、物産展等を開催することとしております。